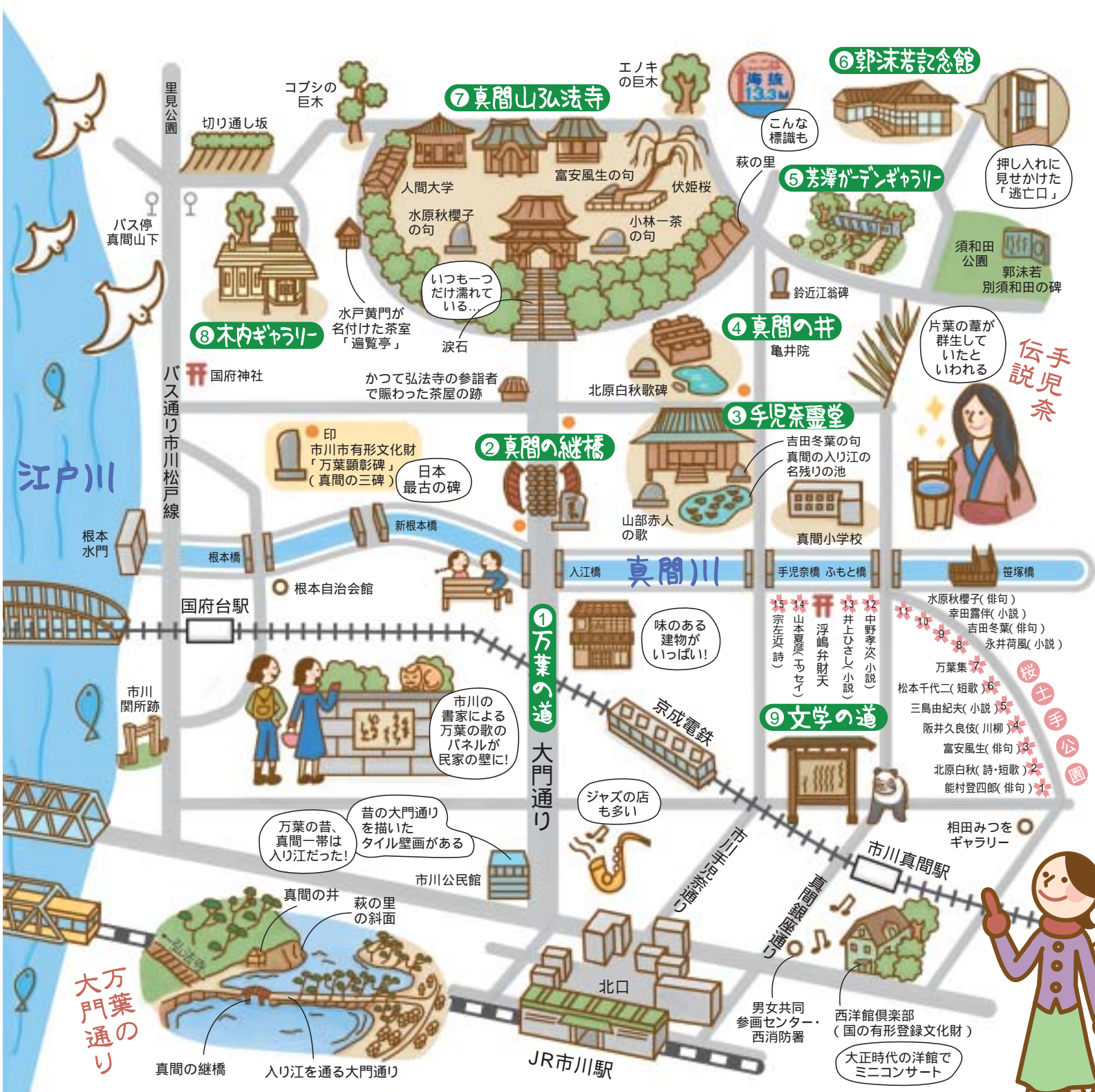


歩いてみよう！

街かどミュージアム



1. 万葉の道

大門通りは、弘法寺の参道として発展してきました。そのにぎわいは『江戸名所図会』にも描かれています。懐かしい商店街の街並みに万葉の歌のパネルはいつみつかるといいでしょう。

2. 真間の継橋

赤い欄干があるのみですが、歩く人は皆、かつての入江の面影を求めて足を止めます。傍らには、万葉集の歌を刻んだ石碑も建っていて、確かにこの地に流れた長い時間を想わせます。

3. 手児奈霊堂

安産・子育ての神として信仰を集めるこの寺には、薄幸の美女、手児奈が祀られています。弘法寺の日と上人が読経している時に少女が現われ、法華經に救われた恩に報いるため寺を守ると告げたそうです。そこで上人は文龜元年（1501）御堂跡にこの寺を建てました。真間の入江の名残である池には、夏が来るとスイレンが咲きます。

4. 真間の井

亀井院の裏庭にあり、今も豊かな水量をたたえます。境内には大正時代の一時期ここに暮らした北原白秋の歌碑も建っています。それは白秋にとって最も貧しかった時代でもありました。



5. 芳澤ガーデンギャラリー

真間5-1-18 374・7687
百樹園と呼ばれる豊かな木々に恵まれた庭、美術品。芳澤月恵さんが市に寄附したこれらの財産を整備し、昨年9月にオープンしました。開放感いっぱいのギャラリーでの企画展のほか、茶室を使っている催しも行われます。1月8日(土)～30日(日)日本人の心のふるさと～百人一首の文化史展～

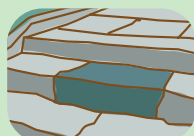
6. 郭沫若記念館

真間5-3-19 372・5400
須和田で亡命生活を送った、中国の政治家・文人である郭氏の邸宅を移築・復元しました。5人の子供たちと共にどのような想いでこの家に暮らしていたのか。飾られた書の文字一つひとつに、深い息づかいを想います。

7. 弘法寺

息を切らして急な石段を上がると、ここが真間山であることを実感します。境内には、春になると地面まで大きく垂れようかというだけ桜「伏姫桜」の大木が。創建は天平9

年(737)にまで遡る名刹で、手児奈の霊を慰めるために行基により建立されました。その後、弘仁13年(822)に弘法大師が七堂伽藍を建立。さらに鎌倉時代には日蓮宗となりました。



伝説の涙石は下から27段目の左側に。いつも湿っている。

8. 木内ギャラリー

真間4-11-4 371・4916
貴族院議員の建てた大正期の洋館を再築復元して、そのままギャラリーになりました。靴を脱いであがれば、壁や調度品が穏やかに語りかけるような空気が流れています。日曜日には音楽会や講演会が行われることもあります。



9. 文学の道

春には桜吹雪の舞う桜土手公園に、市川にゆかりのある文学者の案内板が立っています。万葉集の時代から現在まで多くの文学者に愛された続けてきた市川が身近に感じられます。

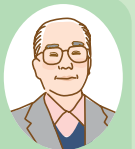
ふるさとを歩く 文化に出会う

街かどミュージアム回遊

市では、街かどミュージアムを生かした都市づくりを推進しています。特に江戸時代には『江戸名所図会』にもその美しさが描かれた真間界隈には、昨年オープンしたミュージアムや名所・旧跡が近接しており、楽しみながら散策するには最適です。実際に街を歩くことで、長い歴史を誇るふるさとをよりいっそう身近に感じることができるでしょう。起伏に富み、四季それぞれに美しさがある界隈です。お気に入りのいちかわの風景を探してみてください。

私たちがご案内します！

「市川案内人の会」は、市内の歴史・文学などを勉強してきたこの街を愛するボランティア・グループです。1名からグループまで、皆さんの散策のお供をします。お気軽にご相談ください。☎334-5710(八幡市民談話室内)



今回ガイドを下さった石田さん

街かどに刻みませんか、あなたの思い

市では、市民の皆様の方で、地域性やテーマ性に合った案内板やサイン標識の整備を進めています。寄附金をお寄せいただいたかたは、サインにお名前とメッセージを刻むことができます。詳しくはまちかどミュージアム推進課までお問い合わせください。寄附金の額 1口5万円(4口で1基設置します)